



嘉穂高等女学校  
嘉穂東高等学校



# 同窓会関西支部 創立10周年 記念誌

2019年4月20日



## 関西支部創設10周年を迎えて

関西支部支部長

**田中 良一** (高校8回生)



僕と同窓会との関わりは平成12年に母親の介護で飯塚に帰った時から始まります。その時8回生の理事の話があり、理事として同窓会に参加し、理事会を通して色々な方々と知り合う機会を得ました。母の3回忌を済ませ平成21年4月関西に戻る事となり、この時日高会長から関西にも関西支部を設立するよう助言をいただきました。

僕自身も関西支部については苦い経験があり、立派な関西支部を作ろうと決心し、会議を重ね、そして“平成22年6月19日”第1回関西支部総会を開催しました。本部から日高会長、東京支部から松尾君が写真担当として出席していただきました。グループ別に立派な写真を撮っていただき、全員に送付しました。

会費は7千円で本部から支援をいただきながらも赤字となりました。2回目は会費を8千円に引き上げたところ「会費が高い」という声があり、会費5千円で出来る会場に変更しました。しかし10周年記念総会は当初の会場で行います。会費は男性7千円、女性6千円の予定です。今回は記念誌の発行と講演会を考えています。

「支部設立の経緯」でも話していますが、幻の第1回関西支部の失敗に深く責任を感じています。東京転勤時は東京支部の総会には数回出席し、当時会場は福岡会館で、本校から毎回先生方が出席され懐かしい思い出があります。飯塚の時は福岡支部の総会にも行きましたが、出席者

の皆さんの高齢化が進む中福岡国際ホールのようなターミナルと直結した所と考え、会場については色々な案がありましたが今のキャッスルホテルに即断しました。

本部の理事会では同窓会を実行する当番生報告や本部と支部との関係など将来の事を常に考えていました。

関西支部の10周年までわずかの期間しかありませんが、立派な記念総会ができると確信を持っています。第1回総会の役員で残っているのは僕と伊藤君の二人ですが、企画委員長、冊子委員長、事務局長をはじめ幹事の皆さん方の働きには感謝の気持ちでいっぱいです。

以上



同窓会本部長

**藤江 文雄**  
(高校9回生)



## 関西支部創立10周年を祝して

関西支部に集結された同窓生の皆さん、支部結成10周年おめでとうございます。母校、嘉穂東高等学校が100周年を迎えた記念する年に、関西支部が誕生致しました。関西支部生みの親、田中良一様の東奔西走、ご苦勞を重ねられた日々を、福岡でもヒシヒシと感じ取ることができました。その間、本部としてこれといったお手伝い、何かのご支援もできず、心苦しく存じています。しかし、結成の前年から10余年の歩みの中で多くの課題を抱え、困難な道のりを歩いておられることも伺い存じております。

本部の活動の大きな柱の一つとして各支部の活性化、発展を掲げています。その一つは会員の同窓会に対する凝集度をどう高めていくかということです。その方策として縦、横のコミュニケーションを豊かにすることだと考えていました。そのような時、田中支部長から素敵なヒントをいただきました。それは連絡を同期同士で行うということです。同期の世話人は忙しくなりますが、より関係が深い人から連絡をいただくと親しみが湧くし、相互に消息も把握できるのではないのでしょうか。本部でもぜひ検討したいと思います。

二つ目は活動資金の問題です。これも解決しなければなりません。各支部との意見交換をしながら妙案を探りたいと計画しています。

最後に、2年後に母校創立110周年を迎えます。それに向けての歩みの中にぜひ関西支部の皆さん方のご意見、ご理解、ご協力を伏してお願いいたします。

同窓会本部元会長

**日高 武邦**  
(高校6回生)



## 関西支部10周年に寄せて

福岡県立嘉穂東高校同窓会関西支部が設立され、第1回総会が平成22年6月19日に開催されました。

田中良一支部長始め関係者ご一同のご苦勞には感謝と共にお慶び申し上げます。奇しくも平成22年は本校創立百周年の年でもありました。田中支部長の生家は、飯塚市鯉田で、小学校を間にして私の住居とは僅か500m程の所です。彼が本部理事の時、関西支部設立に関してよく相談したものです。

平成24年4月21日開催の第3回支部総会には、恩師伊藤嘉孝先生が招待されて居りました。当時は伊藤先生とは「嘉女・嘉穂東INくまもと」で毎年会っていましたが奇遇でした。先生には、高校1年時(昭和26年)に数学を教わりました。

総会后、伊藤先生とは同じホテルに宿泊し、翌日は田中支部長のご次男(高校教師)の自家用車(BMW)で古都奈良、特に普通の観光ルートでない唐招提寺等の案内をして頂きました。その時私共は、夫婦でご一緒させていただきました。その際、ご次男手作りの夫婦茶碗一式とお皿を頂戴しまして、現在その茶碗を毎食事に使っております。今は亡き恩師伊藤先生を偲び、関西支部の事を思い起こしております。

最後に、福岡県立嘉穂東高校同窓会関西支部の今後益々の隆盛と、会員皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

# 座談会「支部設立の経緯」

**出席者** 田中 良一 現支部長(高校8回生)  
有光 忠 元副支部長(高校8回生)  
植山 照美 現幹事(高校21回生)  
司会 荒牧 建藏 現副支部長(高校15回生)



**Q** 現在の関西支部設立以前に2回その機会があったそうですね。  
その経緯についてお話を伺いたいのですが。

## 幻の第1回支部設立

**田中** 昭和59年11月に7回生の永江さんを支部長として発足しました。その時は、嘉女出身者が21名、5・6・7回生が8名、8回生が13名、それから東京支部から5回生の諫山さんが指導のために来られて、計43名が出席されました。



前列中央が永江支部長

ところが、その後支部長がご病気になられ、昭和60年4月には事務局長だった私が東京転勤になったため、結局分解する羽目になってしまいました。

**有光** 私はその時は東京にいましたので参加していないのですが、分解した原因は、その後の体制づくりをきちんとやっていなかったからではないか。それは事務局長がわるいのでは(笑)。

**田中** そのとおり。

## 支部設立準備会

**植山** 私が21回生の谷口夕紀子さんと、神戸の「木曾路」で準備会を開いたのが平成12年です。参加者は7回生から24回生まで総勢37人でした。元気にしちよつと、皆さんに会えて嬉しかったのと、先輩方のお話は楽しかったですよ。谷口さんと当日名札を配ったり、出席者のチェックとか、てんてこ舞いだったんで何もわからない内に終わってしまいました。谷口さんは17年に亡くなられて、本当にあの準備会が思い出になりましたが、天国で関西支部10周年を喜んでいると思います。



当時の出席者は、7回生高嶋さん、8回：野村、木下、粉井、11回：杉谷、石川、野村、三谷、根来、高木、田中、中村、石本、村橋、14回：川端、15回：平田、北川、16回：中村、西野、19回：豊増、加来、井元、20回：永末、松尾、伊藤、養父、21回：谷口、植山、王谷、川口、小森、福井、矢野、23回：阿部、24回：永田、漏れてたらごめんなさい。

皆さん元気になっていますか。また支部同窓会で会いましょう。

**Q** それでは、現在の支部設立の経緯について伺いたいのですが。

## 現在の支部設立の経緯

**田中** 母の3回忌が終わり飯塚から関西に戻る時に、日高会長から関西支部を設立して欲しいという依頼がありました。その件を8回生の有光君と長尾君に相談し、準備委員会を立ち上げることにしました。

そのメンバーの選定に当たっては、私が帰省して本部の理事をしていた時の人脈と、黒木さん(10回生)が所持していたバレー部OBの名簿などを参考にして16名で発足しました。

関西在住者の名簿は、本部発行の同窓会会員名簿からピックアップし、その中から学年幹事をお願いしました。第1回の総会開催は平成22年6月19日に決定し、在住者516名(嘉女81名、高校435名)に案内状を発送しました。

**Q** その時の経費はどうされましたか。

**田中** 私が立替えましたが、その後に本部から10万円の援助金をいただきました。

**Q** 同窓会規約は有光さんが作られたそうですが。

**有光** 東京支部なども参考にしましたが、なるべく関西支部独自のものを創ることにしました。まず、年会費は徴収しないこと。その代わり入会金として千円を徴収して会員とし、その後は、総会案内などは会員のみとする。それから、各会員以外の同窓生への連絡は学年幹事で行うこととしました。そうしないと、500名強への案内状などの送付で会計が破綻してしまうからです。

総会会場は中野さん(元副支部長)の紹介で、大阪キャッスルホテルと決め、第2回総会からは、通り抜けの時期に合わせて4月第3土曜日としました。現在まで60人前後の出席者がありますが、若い人が少ないため、これを維持していくための対策をこれから考えていく必要があります。

**司会** 本日は貴重なお話有難うございました。



創立メンバー(敬称略)

●後列、左から  
有光・黒岩・花房・安藤  
中野(嘉)・植木・中野(弘)

●前列、左から  
荒牧・長尾・伊藤・高橋・田中

# 関西支部の歩み

## 年 史

総 会	開催日	参 加	世の中は
第1回	平成22年6月19日	63人	ノーベル化学賞に根岸・鈴木氏
第2回	平成23年4月16日	68人	東日本大震災・福島原発事故
第3回	平成24年4月21日	80人	中山氏ipsでノーベル賞 スカイツリー
第4回	平成25年4月20日	75人	富士山世界文化遺産に
第5回	平成26年4月18日	60人	消費税8% 広島土砂災害
第6回	平成27年4月18日	75人	パリ同時多発テロ 東北豪雨
第7回	平成28年4月16日	81人	マイナンバースタート 熊本地震
第8回	平成29年4月15日	73人	米国大統領トランプ氏 「モリ・カケ」問題
第9回	平成30年4月21日	89人	西日本豪雨 大阪・北海道地震



## 2018年 関西支部役員・幹事

※(回生)

支部長	田中 良一(8)	副支部長	荒牧 建蔵(15)	副支部長	長谷川浩二(16)
会計	伊藤日出雄(21)	事務局長	花村 二郎(26)	幹事	有光 忠(8)
幹事	中野 弘則(9)	幹事	高瀬 瀧雄(10)	幹事	福間 正浩(11)
幹事	中村 英(11)	幹事	安藤 克史(12)	幹事	黒岩 国幸(13)
幹事	加来 輝雄(19)	幹事	高橋 晶(20)	幹事	植山 照美(21)
幹事	外口 透(21)	幹事	天野 律子(23)	幹事	冨家久美子(24)
幹事	平田 和洋(27)				

## 歴史散策・ハイキング実施

山の辺の道	 	<p>平成26年9月27日 JR巻向駅→纏向遺跡→箸墓古墳→大神神社 邪馬台国近畿説の中心地纏向遺跡から、大物主神を祀る日本最古の神社の一つである大神神社まで、山の辺の道の一部を歩いてきました。</p>
枚方宿	 	<p>平成27年5月2日 京阪枚方公園駅→枚方宿(鍵屋)→浄念寺→本陣跡→淀川資料館 400年前から続いた船宿(鍵屋)付近は、淀川を行き来する所謂「食らわんか舟」(茶船)で名を知られています。</p>
平野郷	 	<p>平成28年5月21日 JR平野駅→杭全神社→刀の博物館→平野公園 戦国時代、町の安全と自治を守るため、環濠がめぐらされ、現在も所々にその跡が残されています。</p>
堺街歩き	 	<p>平成29年5月20日 阪堺線宿院駅→与謝野晶子生誕跡→さかい利晶の杜→千利休邸跡→南宗寺 堺市にある千利休や与謝野晶子ゆかりの史跡をガイドの案内で散策しました。南宗寺には千家一門の供養塔などがあります。</p>
真田丸	 	<p>平成30年5月26日 JR玉造駅→玉造稲荷→心眼寺→陸軍墓地→三光神社 幸村の眠る心眼寺や「真田の抜穴」で有名な三光神社など、真田丸の歴史や地形を楽しみながら散策しました。</p>
秋のハイキング	 	<p>平成30年11月17日 JR西宮名塩→旧福知山廃線→JR武田尾 紅葉の旧線と武庫川の清流を眺めながら「トンネル」「鉄橋」を渡る、ちょっと冒険のようなハイキングでした。</p>

## 私の中の「嘉穂高女」そして「嘉穂東高校」

### 県立嘉穂高等女学校(嘉女)の思い出

立石 玲子  
(旧姓:許斐)(嘉女39回卒)



私は昭和19年に「あこがれ嘉女」に入学しました。太平洋戦争末期で「物不足」でしたが、購買部には在庫があったようです。私は各学年別に色分けされた「赤いゴム紐」で髪を左右にくくって嘉女時代をスタートさせました。当時のクラスは50人ほどで、クラス名は「忠」「孝」「仁」「義」「礼」でした。振り返りますと、上級生は学徒動員で工場に行かされ、1・2年生は季節が来れば稲刈り、麦刈りの手伝いで農家へ。農家の方もありがた迷惑だったかもしれません。美味しいものが食べられるので、初めての鎌を見よう見まねで頑張ったものです。みんな「軍国少女」でしたものね。

2年生の夏に終戦となり、「民主主義」と言われるようになって子供の中にはよくわかりませんでした。父が日鉄二瀬を辞めて家庭環境が激変するのにノホホンとした日々でした。工場に動員されていた先輩が帰ってきて学校はにぎやかになりました。先生方も教育的に「軍国主義」から「民主主義」へと激変し大変



だったと思います。食べ物が不足したのは辛かったです。戦後のそんなときでも学校から嘉穂劇場へ宝塚歌劇の観劇(「歌う狸御殿」)は思春期の私たちにとって明るく楽しくうれしいものでした。進駐軍時代となり学区制が変更となり「男女共学」で嘉穂東となり、男子が入学してきました。当時としては大激変でした。そして私は嘉女の最後の卒業生となりました。

### 同窓会は心の糧・我が逍遙歌と桜

八尋 富士夫  
(高校8回生)



私は同期の田中氏から、関西支部を立ちあげるから是非参加をと、勧誘ではなく要請だった。勿論即快諾し以来一度も欠かしたことはない。

初回は逍遙歌のみ音頭、2年目からは逍遙歌と校歌の音頭を担当させてもらった。それも9年目で私の役目は終わったようだ。9年間ありがとうございました。

平成24年の3年目の時、後輩が教えてくれた造幣局の桜を見てきた。奈良の八重桜があったよ。「いにしへの奈良の都の八重桜・・・」の木札が掛けてあった。ホテルに帰ってしみじみ思った。関西支部は実にいい場所を会場に選んでくれたものだ。ありがとう。

平成25年5回目の総会の案内状に、誰かいい演目は無いか?それを感じて「奈良の八重桜」の件を打診した。懇親会で「奈良の八重桜」の講演となった。この先々までいい思い出になりそうだ。

いつの頃からか本部同窓会の当番生が出席するようになった。私はその都度彼らに本部同窓会で我が逍遙歌を歌うようお願いした。特に実行委員長には二度三度お願いした。最近では当番生達がフレフレ東の指揮を執ってくれる。若き日が蘇り感激だ。

同窓会はふるさとと自分をつなぐ心の糸であり、心の糧である。関西支部も支部長・幹事を中心に、今後ますますの発展を祈念しよう。私もこの老体に鞭打って可能な限り出席したいと思っている。



### 高校生活を回顧して・母校の火事

鮫島 恭一  
(高校7回生)



高校時代と言えば人生で最も多感な時期であるが、中でも特に衝撃的だったのが昭和28年、2年生になった矢先の5月、母校校舎の大半を火災で失ったことだった。

母校火災の情報はたぶんラジオで得たと思うが、急ぎ登校すると校舎は一棟を残すのみで、大半が瓦礫と化していた。あまりの惨状に茫然と立ちすくむ中、私達男子生徒の内の一部は、田原先生の指示で、当夜は夜警にあたり、翌日から数日間は瓦礫の撤去や復旧工事の手伝いに従事した。以降、学び舎を失った私たちは、僅かに火災を免れた講堂を薄っぺらな板で6区画に仕切っただけの仮設教室で、隣室の話し声も筒抜けとなる状況で授業を受けることとなった。また後日聞いた話では、後輩の8回生は飯商や飯女で間借り生活を余儀なくされたとのこと。このような状況も昭和29年の秋、新校舎の完成で終止符を打つこととなったが、振り返ってみれば良き思い出となって甦ってくる。

罹災の翌日、唯一残った校舎に大書されていた、杜甫の「春望」の一節が年金生活となった今でも思い出される。このこともあって、現在居住する神戸市で加入した医療生協で、文化サークルを結成。有名な漢詩や日本の歴史・文化などを紹介する場を設けており、先日はその一環として、伊藤伝衛門と柳原白蓮との物語や旧伝衛門邸を、スライドや動画で紹介し好評を博した。今後も文化活動の一貫として、体力の続く限りこの運動を続けたいと思っている。



## 剣道と恩師安永先生との出会い

笹月 繁  
(高校11回生)



私は昭和31年、11期生として嘉穂東高校に入学し、剣道部に入部しました。これが、恩師・安永先生との出会いとなり、学校剣道指導者への道の起点となりました。

元女学校のため、当初は剣道用具も無く、入部者も未経験者ばかりで、先生は用具の調達から始め、未経験者を育てるための三か年指導計画を立てられました。これは、基本練習の徹底と体力トレーニングを骨格にした猛訓練が柱でした。この指導により私達は体力、気力、忍耐力を鍛えられました。

先生の厳しい指導によって、昭和32年の西日本大会(現玉龍旗大会)3位、33年九州大会予選優勝、等々成果を上げることができました。

3年生のとき、先生から有名な指導者がおられる東京教育大(現筑波大学)への進学を勧められました。この大学での教育と技術指導を得て、私の指導者としての基礎が固まったと思います。

卒業後、大阪の公立高校教員として剣道指導の実践に取組み、35歳で七段を取得、48歳で八段受審資格を得ましたが、管理職として公務を優先、退職後61歳から八段挑戦を始めました。合格率0.5~0.6%という過酷な審査で失敗を重ね、合格したのは74歳のときで深い感銘を覚えます。

安永先生への感謝とともに嘉穂東高校の文武両道の校風と、熱心に教化指導を頂いた先生方へのご恩も忘れることが出来ません。



この項は、剣道時代(平成28年6月号)に掲載された私の寄稿文の転載許可をいただき、記念誌用に縮小したものです。剣道時代の関係諸氏に深く感謝します。

## 定期戦のマウンドで

平田 和洋  
(高校27回生)



私は高校の3年間、野球部に所属していました。一番の思い出は嘉穂高校との「定期戦」です。当時は春と秋の2シーズンで、それぞれ2勝した方が優勝という方式でした。私は2年の春と秋、3年の春の3シーズンに投手として6試合に登板し、2勝4敗の成績で終わりましたが、特に思い出に残るのは2年の春でした。

1敗の後の2戦目で初の先発、意外と平常心で投げられ、結果2対1で久しぶりに勝利することができ、

大変感動したこと。3戦目も先発で登板、内容は中盤まで5点差ぐらいのリードで、がぜん応援団や生徒の皆さんが熱のこもった応援を繰り広げていた応援席。だが、後半に同点にされて9回を迎え、その裏にサヨナラホームランを打たれ茫然とホームベースに整列した光景。三塁側のベンチの前に整列し、応援席にお礼をしたときに見た、涙を浮かべ激励してくれた応援団や生徒の皆さんの姿。すべてが今も私の脳裏に焼き付いています。マウンドの上で見た天国と地獄が私の一生の思い出です。



## 思い出写真



▲昭和45年から「丘の上の学食」。きつい坂でした。ワンゲルが練習で登っていました。「浪人」の補習科もありました。



▲なんと、市営球場で「芋」を育てていた嘉女時代。開墾作業もありました。



◀慣れ親しんだ山「福智山」。鍛錬遠足が懐かしいものです。



▲運動会のあとはファイヤーストーム、「三年男子の世界」。新飯塚駅で枕木をもらっていましたっけ?



◀かつて男子は八木山峠を登り、庄司を抜け、幸袋から学校へ戻る過酷な校内マラソンでした。

# 校歌・逍遙歌

## 福岡県立

### 嘉穂東高等学校校歌

作詞 本校 文芸部 選  
作曲 元本校教諭 山下鎌次郎先生

一、朝日に映ゆる龍王の

雄々しき姿仰ぎつゝ

世代に生くる若人の

希望の集ひこゝにあり

二、ゆたけき穂波寄る所

叡智の光輝きて

自治の緑いや深き

我が学舎に誇りあり

三、霧たちこむる嘉麻川の

久遠の流れはるけくも

たゞ向上の一筋に

真理の道を究めなむ

### 嘉穂高等女学校校歌

作詩 旧第五高等学校教授 八波則吉先生  
作曲 元本校教諭 山下鎌次郎先生

一、琴平山に草薈えて

松の木陰に風薫り

竜王山に月冴えて

水遠白し穂波川

二、自然の母のふところに

かき抱かるる心地して

光あまねき大御代に

学びの道をたどるかな

三、操の鏡身に秘めて

なほも優しくしとやかに

おみな徳を修めつつ

御代の恵に報いなむ

## 吾が逍遙歌

作詞・作曲 第三生徒会長  
山井 静男

一、桜の下に春死なん

古人の恨み懐きつつ  
若き生命の美酒に

酔わんとすれど術もなし

二、青葉にそよぐ乙女子の

鬢のほつれをかきあげし  
夢の姿かそげくも

飛鳥の古仏に似たるかな

三、中空高く煌めける

星の永きに比ぶれば  
英雄の夢重ぬるも

人の限りを哀しめり

四、又流れたり星一つ

漆黒の闇に消えぬれば  
厳しき御言さながらに

宇宙の象徴に愕きぬ

五、月影青く地を照らし

夜寒の雁空を行き  
帰らぬ人を思草ひつゝ

微吟消えゆく穂波川

六、徹宵真理の苦しみに

血涙しぼりて明かすとも  
聞かずや遙かわだつみの

憂悶永久に血を吐くを

## 解説

一、「願わくは花のもとにて春死なむ  
その如月の望月の頃」の西行さんの  
夢を追いつつ若さにまかせて盃を  
重ぬるも酔うほどに気が晴れない。

二、新緑かおるそよ風に鬢のほつれを  
かきあげる少女よ。可愛いくも  
りりしいその姿は、かすかながら  
飛鳥の仏様に似てることよ。

三、大空に煌々と輝く星たちの永遠の  
ながれ(動き・運行)に比ぶれば  
英雄たち(人間)の栄枯盛衰は  
はかないものだ。

四、流星一つまた一つ漆黒の闇に消え  
る様は、厳かな万物の営みの様に  
宇宙の決まり全ての物を包み込む  
大きさに驚いてしまう。

五、月の光が明るく地上を照らし、  
寒々とした夜空を雁が群をなして  
行く。

六、夜を徹して語り合う真理の追究に  
涙して明かしたこの情熱。  
聞いてくれるか、はるかな海の神  
(母なる海)よ。  
永遠に続くのか此の青春の苦悶。

この歌は古歌・乙女・日本の心の  
故里飛鳥・宇宙・青春の苦悶等を  
謳い上げたロマン溢れるそして青  
春の日を心にひびかせる「生涯の  
青春歌」である。

高校八回生 八尋富士夫